



令和5年6月27日（火）  
第3回うすきプラットフォーム

# 人材の不足について

～ シリーズ：うすきの未来を考える ② ～

臼杵市地域力創生課



## 前提としての「社会の変化」について

少子高齢化の進展、平均寿命の延伸、長期にわたる経済の低迷、雇用慣行や労働環境の変化、共同体機能（血縁、地縁、社縁）の脆弱化、人生観や生活様式の変化等の社会全体の変化に伴い、個人が抱えるリスクが多様化、複雑化するとともに、温暖化の影響等によって自然災害も増加しており、人と人とのつながりや助け合いといったセーフティネットの重要性が増している。また、生産年齢人口の減少により、あらゆる人材の不足が深刻化しており、テクノロジーの活用等の効率化に向けた動きも加速化している。

	現状	2040年頃のイメージ
世界	人口が増加（70億人）	増加が続く（80億人）
日本	人口の減少	さらなる減少（毎年55万人以上）
臼杵市	さらなる減少（人口3万5千人）	さらなる減少（人口2万4千人）
人のつながり	地縁が残っている	<u>放っておけば脆弱化</u>
災害	豪雨等の自然災害が増加	さらなる自然災害の増加
臼杵らしさ	残っている	<u>これから次第</u>

### 【令和5年3月】

- ・より専門性を高めた検討ができる部会を作り、その内容を全体共有する
- ・異なる立場や意見を調整する「人（コーディネーター）」と「場（プラットフォーム）」が必要

### 【令和5年4月】

- ・課題が大きくなってからパッチを当てるような対応ではなく、そもそもの原因が何なのかを整理して対応できる体制づくりが望ましい
- ・人口減、住まい、担い手不足等の検討していく体制が必要であり、どのような支援がベストなのかを検討する分科会が必要ではないか

### 【令和5年5月】

- ・課題の解決は単独の機関ではできない。立場ごとにできることとできないことがあり、すぐに解決策を見つけるのは困難だが、何か手立てや機能の掛け合わせが考えたい。
- ・地域の担い手や減少する。地域で暮らしていく人達が、今ある役割から踏み越えたことを考える必要がある。
- ・必要な時に必要な人がいなくなる。高齢者等が働けるところがまだ少ないという課題もある。
- ・災害が起きた時に見守りが必要な人が多くなってきている。今後見守れる人を増やすことや関係者内での仲間づくりが必要になる。
- ・区が消滅していくことが考えられる。民生委員や区長の担い手の負担が大きく続ける人がいなくなっている。今後は役割や単位を統合していくことが必要になる。
- ・民生委員や児童委員のみでは地域を救えないので、住民それぞれが健康維持をできるようセルフケアを身に着けることも必要。

## 人材不足へのアプローチとして、今何ができるでしょうか？

- 「支援関係者」の不足へのアプローチ
- 「全産業」での人材不足へのアプローチ
- 「地域」での担い手不足へのアプローチ